

1) あるエネルギー段階のチューニングの場合

1. 以降の RF 系では加速しない状態が望ましい。RF を励振しない方法よりは、タイミングをずらして励振する方法が、望ましいと思われる。この場合、あるエネルギー段階に応じたパルスタイミングシステムが必要。例えば、DTL1 のチューニングの時、後段では、rf テストあるいはエージング等をしたいのでは？タンクを冷やすと面倒だ。
2. 以降の収束系は、粒子の運動量に応じて変化させる必要が予想される。従って、エネルギー段階に応じて、収束系を変更するためのテーブルが必要。
3. エネルギーとしては、RFQ, DTL1, DTL2, DTL3, 2 タンク毎の SDDL 出力エネルギー (19 種類) が考えられる。

RFQ, MEBT1            3            これを後ろまで運ぶかどうか。

DTL-1    19.716

DTL-2    36.717

DTL-3    50.078

S2        55.55    S4        61.65    S6        68.45

S8        76.01    S10      84.36    S12      93.65

S14      103.09   S16      112.67   S18      122.34

S20      132.07   S22      141.85   S24      151.65

S26      161.46   S28      171.26   S30      181.03

4. RFQ 加速後は、全てのビームは直線ダンプまで運ぶ事を想定する？